沿岸沖合域海況調査

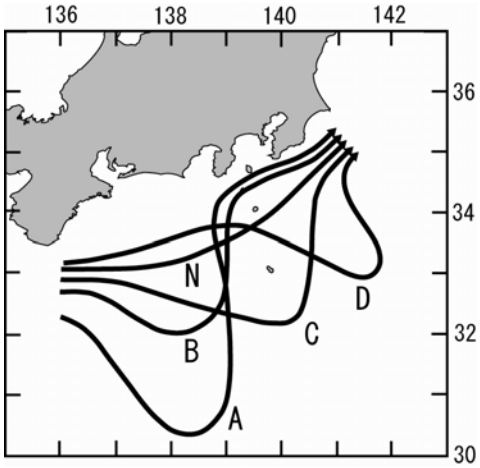
（予算区分：国庫補助　研究期間：平成９年度～）
担当：水産技術研究所　資源海洋科　高木康次

【研究の背景とねらい】

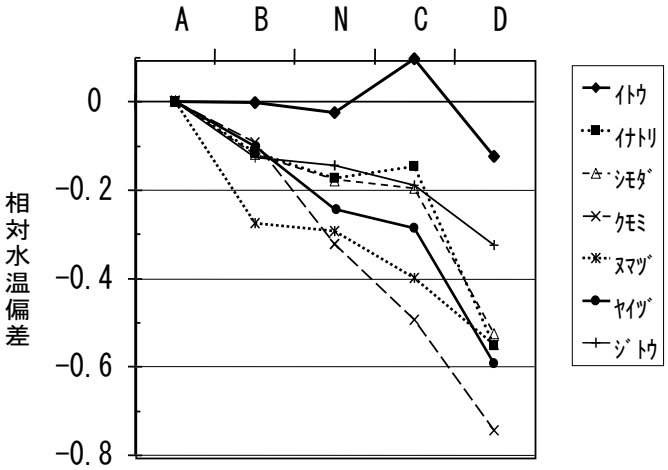
計画的な操業を進めるため、沿岸沖合域の海況について調査し、海況変動に応じた漁況予測手法について検討するなど情報の高度化を計り、的確に情報を伝達します。

【これまでに得られた成果】

・本県沿岸沖合域の海水温は、黒潮流路の影響を受けて変動し、長期的な黒潮流型と沿岸水温の関係では、Ａ型＞Ｂ型＞Ｎ型＞Ｃ型＞Ｄ型の順に水温が低くなる傾向がみられます。また、Ａ型およびＢ型では平年より高め、Ｎ型およびＣ型では低めとなります。しかし、黒潮の影響は相模湾と駿河湾、湾奥と湾口で異なり、それぞれの場所の特徴を持っています。
・平成 23 年の黒潮はＮ型基調で推移しましたが、陸に接近した期間が長かったため、黒潮から沿岸域に暖水が流入することが多く、沿岸域の水温は平年より高めで推移するとともに急激な水温上昇が見られました。
・伊豆諸島北部海域が冷水域となるＣ型時にはサバ類の漁場形成が暖水の波及の状況と関連していることが確認されました。
・カタクチシラスの春漁について、水揚量と春漁の開始時期が、黒潮離岸距離、定地水温及び親イワシの水揚量を用いた重相関分析で予測できる可能性が示唆されました。
・調査結果を基に、漁況や海況の速報として１回／月、漁況予測については３回／年発表し、研修会やＦＡＸ等を通じて関係漁業者に伝達しました。



黒潮流路の型



黒潮流型による沿岸水水温の変化

【期待される成果】

・沿岸沖合域の調査結果は速報や漁況予測の基礎資料となり、それを活用することにより効率的、経済的な操業が可能となります。
・継続して海況調査を行うことで温暖化などに関連した環境把握が可能となります。

【今後の計画】

静岡県沿岸沖合域の海況調査を継続実施し、海況変動と漁況変動との関係を明らかにするとともに漁海況予測の精度向上を図ります。

（作成　平成 24 年４月１日）